

人いきましたが、残念なことに結婚を機に退職しているの、できるだけ長く仕事を続けてほしいと思っています。

■働きやすい環境を目指し、

ノー残業デーを導入

社員が一生懸命に働くことはありがたいことですが、残業や土日の出勤など働き過ぎは社員の健康面からみても良いとは思いません。日々の仕事の効率をあげるにはどうすればよいのか考えてほしいと思います。

昨年の10月から毎週水曜日を定時退社とする「ノー残業デー」を導入しました。現場の社員には、事業が完了したらリフレッシュ休暇を取るように促しています。何事もメリハリが必要だということです。

■社員の育成に力を注ぐ

わが社では、人材育成を重要な位置付けとしています。厳しい経営環境ではありますが、社員の教育関連予算については将来の投資と考え、必要な分を確保しています。

建設業界は地球環境を考えていかなければならない厳しい時代になりました。そこで、苫米地さんの場合、北里大学の大学院に会社の費用で派遣しました。大学院で学んだ緑化の研究は、現場で大いに役立っています。

■仕事と家庭の両立について

社員には結婚、出産、育児を理由に会社を辞めてほしくありません。会社のためにもなりません。今、少子化の時代ですから子どもがたくさん生まれることは誰もが願うことです。わが社にもフレックスタイムを利用して社員や、1年間の育児休業を取得している社員がいます。

ただし、男性の社員では育児休業を取得した例はありません。あまり社会全体に理解されていないのではないのでしょうか。でも、子育ては貴重な体験です。もし、社員から申請があったらじっくり話し合い、お互いによい方向を目指していきたいと思っています。

最近の女性の雇用状況について、ハローワークに聞きました。



三沢公共職業安定所 (ハローワーク) 十和田出張所 所長 佐藤 敏夫さん

■働きたい意欲があればこそ

女性が希望する職業で最も多いのは、事務または販売です。現在は、

原則として性別や年齢を制限する募集案内はできません。

ほかの地域でしたが、長距離トラックの運転手として採用された女性がいきました。最近では求人募集が少ないので、女性の皆さんに、働く意欲があれば、男性の職業と思われる分野でもハローワークとして大いに応援したいと思っています。

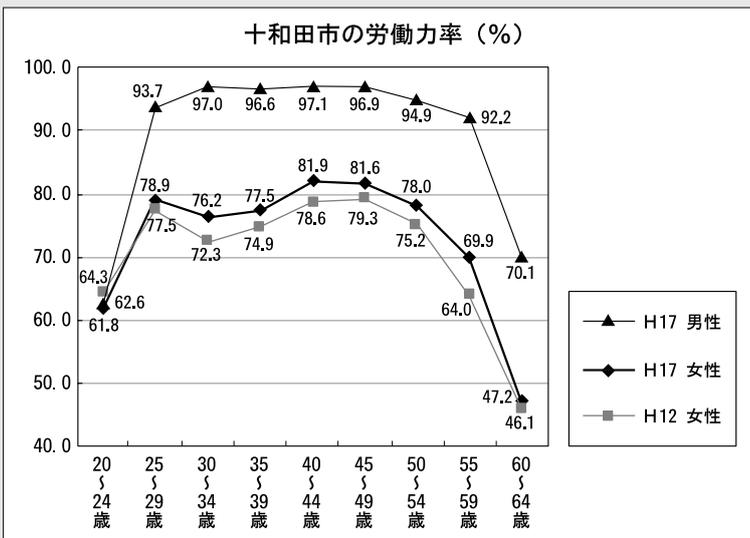
■家庭の中で話し合うことが必要

わたしたちは仕事だけで生きていくわけではありません。生きる上で、

出産や子育て、介護などいろいろな場面を迎えます。働く人にとって、そのとき、誰がどのように向き合うのが大事で、雇用者側の理解も必要です。

共働きの家庭が増える中で、育児や介護を抱える労働者への支援や雇用者側への助成などいろいろな施策があります。しかし、どんなに支援策があっても活用するのは労働者です。家庭の中で大いに話し合い、仕事と家庭の両立を目指してほしいと思います。

働いている、または働きたいと思う女性が増えています



年齢階級別潜在的労働力率

労働力率は、働いている、または働きたいと思っている人の割合で、男性の場合は、台形を描くのに対し、女性の場合は、結婚や出産、育児を迎える30代に落ち込みM字を描きます。

働く女性が増えている現在、みんなで家事や育児を支え、仕事と家庭の両立を図る環境づくりが必要です。

資料：総務省「国勢調査」